

# 礼拝について

親愛幼稚園園内研修 2016/08/18 井田

## 1. 礼拝は〈神さまとわたしたちの交わり〉の時間

- ・ 十字架を仰ぐ 神さまの前に静かに座る。
- ・ 姿勢はまっすぐ。けれども緊張してこわばるのではなく、むしろ楽になる。
- ・ わたしたちを愛して守っていてくださる神さまに対して親しい思いを持ち、自分を開く（自分を開くと、よいものが自分の中に入ってくる）。
- ・ 礼拝は一方通行ではなく、交流
  - ① 神からわたしたちへ 聖書とおはなし
  - ② わたしたちから神へ 祈りと聖歌
- ・ 大切にしたいのは、まっすぐで温かい心（まごころ）。
- ・ 礼拝は神さまのもとで一つにされる時間。協力の機会。

## 2. 礼拝は日常とは違う特別な世界（時間）

その世界の中に入って～経験して～出る（日常の世界に戻る）

鐘・光（ろうそく）・前奏——世界に入る

後奏・消火——出る。日常の世界に戻る

沈黙（黙想）

## 3. 具体的なヒント

ひとつひとつが皆への奉仕（励まし、慰め、力づけ）。自分も味わう。

- ・ 鐘 始まりを知らせる。祈りを込めて打つ。遠くまで響かせる気持ちで。余韻を聞く。
- ・ ろうそく 神さまの愛が燃えて、光がわたしたちを照らしている。
- ・ 奏楽 柔らかく澄んだ気持ちで。
- ・ 聖書朗読 何が書いてあるか（物語／呼びかけ／神さまからのメッセージ）を伝達する役。自分の心に届き、聞く人によく伝わるように。はっきり、明瞭に。間合い。口をよく開き、器官をよく使う。声を出さず役（司式者は特に）は、体と顔、口を慣らしておくのがよい。
- ・ 祈りの先唱 祈りの内容を明確に、確信して声を出す。皆の祈りを引き出す。
- ・ 司式者は自分自身が祈りつつ、皆の祈りや役割を支えたりまとめたりする役。

## 4. 礼拝は、積み重ねて慣れていくと、自分自身の中に〈大事な何か〉が蓄えられていく。

力の源泉となる。キリスト教保育の核心。

# 始業礼拝

2016年8月18日 親愛幼稚園



学校法人 親愛学園

親愛幼稚園

聖歌 ♪ 御手の中で

司式者 主よ、わたしたちの口を開いてください

会衆 わたしたちは、主の誉れを現します

司式者 栄光は、父と子と聖霊に

会衆 初めのように、今も、世々に限りなく アーメン

司式者 主をほめたたえましょう

会衆 主のみ名をたたえます

## 詩編第95編

- 1 主に向かって喜び歌い || 救いの岩に声を上げよう
  - 2 感謝に満ちてみ前に進み || 賛美の歌で神をたたえよう
  - 3 主は偉大な神 || すべての神にまさる王
  - 4 地の深みは主のみ手に || 山の頂もまた主のもの
  - 5 海は神のもの、主はこれを造られた || 乾いた地も主は造られた
  - 6 身を低くして伏し拝み || 造り主、主のみ前にひざまずこう
  - 7 主はわたしたちの神、わたしたちは神の民 || わたしたちはその牧場の民、そのみ手の羊
- 栄光は || 父と子と聖霊に  
初めのように、今も || 世々に限りなく アーメン

司式者 聖書のみ言葉を聞きましょう

朗読者 旧約聖書・創世記第15章1節から

- 1 これらのことの後で、主の言葉が幻の中でアブラムに臨んだ。  
「恐れるな、アブラムよ。わたしはあなたの盾である。あなたの

受ける報いは非常に大きいであろう。」

- 2 アブラムは尋ねた。「わが神、主よ。わたしに何をくださるというのですか。わたしには子供がありません。家を継ぐのはダマスコのエリエゼルです。」
- 3 アブラムは言葉をついだ。「御覧のとおり、あなたはわたしに子孫を与えてくださいませんでしたから、家の僕が跡を継ぐことになっています。」
- 4 見よ、主の言葉があった。「その者があなたの跡を継ぐのではなく、あなたから生まれる者が跡を継ぐ。」
- 5 主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」
- 6 アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

朗読者 聖書を終わります

☆☆

祈り 1 わたしたちを愛し、子どもたちを愛していただく神さま、新しい2学期の歩みと働きのために、あなたの祝福と導きをお与えください

会衆 主よ、このお祈りをお聞きください

祈り 2 わたしたちは子どもたちの成長を見守り、またその助けとなるためにこの幼稚園に招かれました。そのためにわたしたちを整え、導いてください。わたしたちに澄んだ温かい心をお与えください。わたしたちもまた子どもたちとともに成長することができますように

会衆 主よ、このお祈りをお聞きください

祈り3 わたしたちが互いに助け合い、神さまからゆだねられた良い  
目的のために力を合わせるができますように

会衆 主よ、このお祈りをお聞きください

祈り4 この幼稚園でたくさん子どもたちが豊かに成長できるように、  
多くの入園志願者が与えられますように。

会衆 主よ、このお祈りをお聞きください

祈り5 わたしたちが神さまから励ましと導きを受けるために、聖書  
のみ言葉に耳を傾け、心から祈ることができますように

会衆 主よ、このお祈りをお聞きください

祈り6 主よ、わたしたち職員の心とからだの健康を支えてください。  
大切な務めを果たすため、愛と信仰を、知恵と勇気をお与え  
ください。わたしたちが困難を抱えるとき、わたしたちを守り、  
支え、導いてください。

会衆 主よ、このお祈りをお聞きください

祈り7 神さま、さまざまな困難、圧迫、虐げ、また恐れや不安のう  
ちにある人々を顧みてください。ことに東日本大震災の被災  
者、犠牲者、放射能の危険のうちにある人々、九州の地震被災  
者、沖縄の人々、中近東をはじめ世界各地での戦争や暴力  
の犠牲者……をおぼえてお祈りします。（沈黙）

司式者 主よ、遠いところにも近いところにも、わたしたちのうちにも  
平和をお与えください。また神さまと隣人のために労苦し  
ている人々を強め支えてください。

一同 主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司式者 主よ、憐れみをお与えください

会衆 キリストよ、憐れみをお与えください

司式者 主よ、憐れみをお与えください

天におられるわたしたちの父よ、み名が聖とされますように。み国が来ますように。みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。わたしたちの日ごとの糧を 今日<sup>きょう</sup>もお与えください。わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。

**国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。アーメン**

### 子どもたちのため

天のお父さま、主イエスさまは幼子を祝福し、神の国はこのような者の国である、と教えられました。どうかすべての子どもたち、ことに親愛幼稚園の子どもたちを守り、祝福を注いでください。またそのご家族にも恵みを注いでください。子どもたちがあなたの慈<sup>いづく</sup>しみのうちに心も体も健やかに成長し、世の光、地の塩となり、あなたと人を愛して歩むことができますように、主イエスさまによってお願いいたします。**アーメン**

司式者 わたしたちの助けは主のみ名に

会衆 主は天地を造られました

司式者 主のみ名を賛美しましょう

会衆 永遠に至るまでほめたたえます

司式者 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりがわたしたちとともにありますように。**アーメン**

聖歌 ♪ 親愛幼稚園のうた

**本日の流れ** マルコ 6 : 30 - 44 「五千人に食べ物を与える」から実際にお話をつくる

♪ にひきのさかなと

1. レクチャ（井田）

「聖書のお話について」

（今日の箇所を読んでもみる）

「今日の箇所について」

- ・ 34 イエスさまが群衆を憐れました。  
弱っている人たちを見て心が痛んだ。何とかしてあげられないか。
- ・ わずかしかない→わずかだがある
- ・ イエスさまが受け取って祈ってくださる 「天を仰ぐ」
- ・ パンを裂く（ちぎる）
- ・ 配る（弟子たちに配らせる） どんな気持ち？

2. しばらく各自で読んで思いめぐらす（紙に書く）

3. グループで話し合う

4. 短くグループの報告をする

5. 各自お話を書く（5分くらいのお話）

6. 実際にお話をしてみる

7. 感想・分かち合い・質問……締めくくり

# 聖書のお話（聖話）について（1）

親愛幼稚園

2014/06/26 井田

## 1. キリスト教保育の根本は 愛 「親愛」の愛

愛は神から来る。

キリスト教の基本 神は「三位一体」

神さまはわたしたちを愛する（守り、生かす）ために三重の姿をとり、三重の働きをされる。

父 世界とわたしたちを造られた。命の源。親。

子（イエス・キリスト） 人となってわたしたちのところに来て、共にいてくださる。

聖霊 わたしたちの心の中に入り、心を潤し、神さまを悟らせてくださる。

## 2. 十字架の意味 十字架はイエスさまの姿を示す

1 イエスさまは両手を広げてわたしたちを招き、迎えてくださる

2 イエスさまはしっかり立って、わたしたちを支えてくださる

3 イエスさまはわたしたちのことをすべて知り、わたしたちの重荷を引き受けてくださる。

## 3. 親愛幼稚園の願い

子どもたちが神さまから愛されていることを経験できるように。

職員も神さまから愛されていることを経験できるように。

神さまの愛がいつも園の空気の中にあるように。

## 4. 神さまの愛は、聖書の言葉とお祈りをとおしてわかっていく

聖書なしには、自分が考えた神さまになってしまう。

→ 聖書のひとつひとつのお話からほんとうの神さまを知っていく。神さまに触れていく。

お祈りなしには、神さまとの交流が起こらない。

→お祈りをとおして神さまとわたしたちの交流（心の通い合い）が生まれる。喜び、力.....

## 5. お祈りすること、聖書のお話ができることがキリスト教保育にとって大切

聖書——物語に入っていく 物語の中で神さまとの出会いが起こる

昔のお話（聖書）のお話をする（きく／準備する）ことをとおして、それがいつのまにかわたしたちに関係のある話になる。

聖書は、わたしたちに（子どもたちに）励ましと導きを与える。

聖書をとおして、神さまは励ましと導きを与えてくださる。

## 6. （例）ヤイロの娘とイエスの服に触れる女の人話 マルコ 5：21-43

# 聖書のお話（聖話）について（2）

親愛幼稚園 2016/08/18 井田

## 1. 聖書の物語を楽しむ

その世界の中に入っていく（語り手も聴き手も一緒に） 不思議な話は不思議なままに。  
——ある意味で絵本を読んで聞かせることと共通。素話（すばなし）。

## 2. 物語の中に神さまの愛、イエスさまの働きがある——それを発見していく

あまり教訓ふうにはしない。強く教訓で締めくくるとせっかくの物語の楽しさが失われる。  
（ただし、教訓・教えが必要なときははっきりそれを伝える。）

## 3. お話の準備の流れ

### (1) その箇所をよく読んで理解し・想像する

場所は？ 登場人物は？ 何がそこに起こったか？ 風景、情景……  
登場人物は何を経験し、何を感じたか？ 気持ち、疑問、驚き、不思議……  
聖書の言葉を繰り返し読み、一語一語ていねいに見ていくと、だんだん深まって来る。

### (2) このお話はわたし自身とどんな関係があるだろうか？

気になること、連想すること、慰められること、教えられること……  
何でも気づいたらメモする。

### (3) このお話は子どもたちとどんな関係があるだろうか？

### (4) この物語（聖書の言葉）をとおして神さま（イエスさま）は何をみんなに伝えたいと願って おられるのだろうか？ 使信（メッセージ）の発見 今回のお話の中心は？

### (5) お話を自分なりに書く。そしておぼえる。リハーサル！

### (6) 祈る（これは準備の最初の段階から）

神さまがわたしをとおして何か大切なことを語ってくださいますように。

### (7) 話す 大事なことは物語をとおして伝わっていく

その場面を見ているように、そこに自分がいるかのように思い浮かべつつ話す。イメージ  
皆に、全体によく届くように話す。

聞いてくれる子ども数人に、（視線を移しつつ）集中して語りかけるのもコツのひとつ。  
失敗や不十分なことがあっても大丈夫。失敗や困難の経験の積み重ねから成長する。